

アジサイ葉化病について (Q&A)

Q1 アジサイ葉化病について教えてください。

(答) アジサイ葉化病は、アジサイの花（がく）全体またはその一部が淡い緑色から濃い緑色の葉っぱのようになる病気です。

植物の細胞内に寄生する細菌の一種である「ファイトプラズマ」が原因でおこる病害です。

アジサイ葉化病に感染したアジサイを挿し木することによって拡大するものと考えられます。一般にファイトプラズマ病は、体長数ミリのヨコバイ類がファイトプラズマを媒介することによって伝搬する事が知られていますが、アジサイ葉化病の場合には栄養繁殖以外には今のところ感染経路はまだはっきりとわかっていません。

ただし、アジサイ葉化病に感染したアジサイが接触することによって病気が別のアジサイに伝搬することはありません。また、アジサイ以外の他の植物への感染は、確認されていません。

(病気の特徴)

- ① 花（がく）全体またはその一部が淡い緑色から濃い緑色に葉化する。
- ② 葉化した花の中央部から新たな芽が形成される「突き抜け症状」がみられる。
- ③ 葉の黄化または赤化症状がみられる。
- ④ 株が衰弱する。



写真①：葉化症状株
(写真提供：神奈川県農業技術センター)



写真②：突き抜け症状
(写真提供：東京大学植物病院)



写真③：葉の黄化・赤化症状
(写真提供：中央農業総合研究センター)



写真④：株の衰弱症状
(写真提供：神奈川県農業技術センター)

Q 2 アジサイ葉化病の見分け方を教えてください。

(答)

アジサイ葉化病の病徴は、花（がく）全体または一部が葉っぱのように緑色に変化するなどの特徴がありますが、アジサイの種類によっては開花前後に緑色に変色するものなどもあり、これらのものとアジサイ葉化病のアジサイを正確に見分けることは難しいとされています。

なお、花（がく）の枚数が4枚でないもの、形が揃いで大小様々なもののほか、花の葉脈（網目状の構造（模様））が通常より粗いものは、アジサイ葉化病に感染した可能性が高いとされています。

アジサイ葉化病に感染しているかどうかは、東京大学植物病院で検査が可能ですので、アジサイ葉化病の感染が疑われる場合には以下にご相談ください。

東京大学植物病院

電話：03-5841-0567

e-mail：abyoin@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

ホームページ： <http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/cps/hospital/>

Q 3 アジサイ葉化病に感染している場合は、どうすればよいのですか？

(答)

感染の拡大を防ぐために、アジサイ葉化病に感染しているアジサイから挿し木などの増殖は行わず、抜根・除去するのがよいと考えられます。また、感染株の除去後も根等の残さからアジサイ葉化病に感染する可能性も否定できませんので、同じ場所にアジサイを植えることは避けた方がよいと考えます。

なお、葉化病に感染したアジサイの剪定作業等に用いたはさみやナイフ等の器具を介しての感染は通常ないものと考えられます。

Q 4 緑色のアジサイが流通・販売されていますが、これらはアジサイ葉化病に感染しているのでしょうか？

(答)

市場で流通・販売されている緑色のアジサイを分析した結果、その一部で葉化病に感染したアジサイがみられたとの報告もあります。

しかしながら、アジサイ葉化病は、外見だけで判断することは難しいので、ご不明な点については東京大学植物病院にご相談ください。

また、切り花のアジサイを家庭内で観賞する場合においては、他への感染の恐れがほとんどないとのことから、観賞後に適切に処分すれば、特に問題ないと考えられます。

Q 5 緑色のアジサイで国内において品種登録されているものはあるのでしょうか？

(答)

現在、品種登録されている緑色のアジサイはありません。

なお、緑色の花を持つもので「ミドリヤマアジサイ」「緑花アジサイ」などがありますが、これらは品種登録された品種ではありません。

注：品種登録とは、品種を育成した者が育成者権を主張したい場合に農林水産省に出願し、登録要件を満たしていれば登録される制度のことです。